

2024 年度事業報告書

特定非営利活動法人 産業防災研究所

I 事業期間

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

II 事業の成果

2024 年度は、JR 西日本あんしん社会財団から 50 万円の活動助成金を受けての活動が中心であった。助成を受けた活動は「堺泉北地域における企業防災と地域防災をつなぐ支援活動」であり、特別防災区域内の企業防災の実態と地域住民の防災意識を明らかにすること、企業と地域住民および地域行政間のリスクコミュニケーションを促すことを目的として、主に以下の4つの事業を実施した。(a) 市民向け防災シンポジウム(その1)の開催、(b)企業へのヒアリング調査、(c)地域住民を対象としたアンケート調査、(d)市民向け防災シンポジウム(その2)の開催。(a)の市民向け防災シンポジウム(その1)は木戸市議員との共同開催であり、能登地震を踏まえて火災に焦点を当てて実施した。パネルディスカッションでは畑中市長も交えて活発な議論を行うことができた。(b)の企業ヒアリングでは、企業の立場や事情について直接話を聞くことができ、大規模災害については企業としては事前対応が難しい場合もあり行政の支援が必要であることや市民対話(レスポンシブル・ケア)の内容などを知ることができた。(c)の高石市沿岸部住民対象のアンケート調査では、市民の防災意識や地域防災の問題点を把握することができた。(d)の市民向け防災シンポジウム(その2)では、産業防災と地域防災の間のギャップや住民と企業とのリスクコミュニケーションの不足が明確になった。さらに、これらを解消するためには、行政の積極的な関与や被災シミュレーション技術の向上等が必要であることが明らかになった。

上記の助成金に基づく活動以外の活動としては、2024 年度から理事長が安全工学会の会員となり、安全工学会内に立ち上げられている「産業防災研究会」のメンバーとして学会活動に加わった。活動の一環として学会誌にコンビナートを有する地域の防災上の問題点などをとりまとめて寄稿することができた。また、2023 年度に実施したコンビナートおよびその周辺地域を対象としたゲーム型防災ワークショップのための素材および手法を京都大学から引き継ぐための打ち合わせを防災研究所で行った。

III 事業の実施状況

1 特定非営利活動に係る事業

(1) 堺泉北地域における企業防災と地域防災をつなぐ支援活動

(内 容) JR 西日本あんしん社会財団からの助成金に基づく下記の4事業

(a) 市民向け防災シンポジウム(その1)の開催

(実施場所) たかいし市民文化会館アブラたかいし小ホール

(実施日時) 2024 年 4 月 20 日(土) 10:00～12:00

(事業の対象者) 一般市民

(参加者数) 143 名

(収 入) 500,000 円(JR 西日本あんしん社会財団助成金、(a)-(d)の4つの事業に使用した)

(支 出) 32,350 円(当法人負担分)

(内容の詳細および成果)

基調講演：地震火災・津波火災への備えを考える，京都大学防災研究所 西野智研准教授

パネルディスカッション：避難方法を考える，自助・共助・公助の限界を考える

成果：基調講演では，能登半島地震に伴う火災被害の調査報告を中心に，過去の大震災における地震火災・津波火災の実態，火災被害を予測するためのモデル開発について話題提供があった。パネルディスカッションでは，地域の防災上の様々な問題点について，市長を交えて質疑応答が行われた。

(b) 企業へのヒアリング調査

(実施場所) 三井化学株式会社大阪工場，一般社団法人日本化学工業協会

(実施日時) 2024年7月3日(水) 13:00～15:00，9月20日(金) 10:00～12:00

(事業の対象者) 企業および協会の防災担当者

(参加者数) 10名

(支出) 0円

(内容の詳細および成果)

三井化学株式会社大阪工場：事業所で取り扱っている危険物や自然災害に対する対策についてヒアリングを行った。大規模災害については企業としては事前対応が難しい場合もあり行政の支援が必要であることがわかった。

一般社団法人日本化学工業協会：全国の化学工業関連企業の協会での市民対話（レスポンシブル・ケア）の担当者からその内容などに関するヒアリングを行った。事業所からの二次災害を想定して市民対話を行うことは現状では企業単独では難しいことがわかった。

(c) 地域住民を対象としたアンケート調査

(実施場所) 高石市

(実施日時) 2024年11月～2025年2月

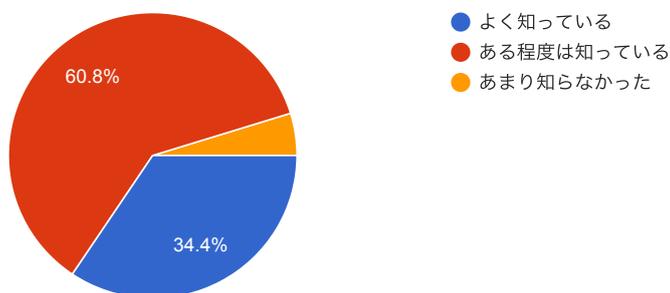
(事業の対象者) 高石市沿岸部住民

(参加者数) 2500戸（アンケート用紙配布先）

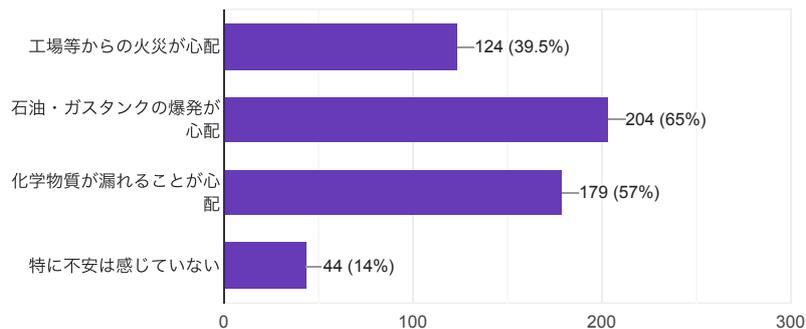
(支出) 487,736円（ただし(d)のシンポジウム開催費を含む費用）

(内容の詳細および成果)

アンケート調査の内容は一般的なものであるが，コンビナート地区を意識した設問を設けた。アンケートハガキ（2,500枚）を高石市沿岸部の5地区に各500枚を配布した。アンケートへの回答は，Web および返信ハガキの2通りの方法で回収した。回答数は316件（回収率12.6%）であった。回答を統合するとともに結果のグラフ化など整理を行った。



アンケート調査結果の例(1) 質問「臨海部では，石油・ガスなどの危険物が取り扱われていることを知っていますか？」に対する回答（複数選択可能）



アンケート調査結果の例(2) 質問「臨海部に危険物を扱う企業があることに不安を感じますか？」に対する回答（複数選択可能）

(d) 市民向け防災シンポジウム（その2）の開催。

(実施場所) 高石市羽衣公民館（パンセ羽衣）大会議室およびオンライン併用

(実施日時) 2025年3月22日（土）13:00～17:00

(事業の対象者) 一般市民および遠隔からの試聴者

(参加者数) 65名（うち約30名はオンライン参加者）

(内容の詳細および成果)

下記のとおり、4件の話題提供と質疑応答をパネルディスカッション形式で行った。シンポジウムの内容については、ホームページ上に動画と講演資料を公開した。

(<https://www.idplab.org/activity/symposium2025/movies250322.html>)

14:00 - 14:30 NPO 法人産業防災研究所 理事長 青木 伸一

あいさつ、趣旨説明、高石市沿岸部住民の防災意識調査について

14:30 - 15:00 三井化学大阪工場 安全・環境部長 片岡 敏幸

三井化学大阪工場における保安防災の取り組み

15:00 - 15:30 安全工学会産業防災研究会、大阪大学特任教授 石丸 裕

自然災害と工業地帯に面した地域の安全 (NATECH)

15:30 - 16:00 大阪大学大学院工学研究科博士課程2年 堤雄大

石油貯蔵タンクの津波による破壊と石油拡散シミュレーション技術の開発

16:00 - 最大17:00 ごろまで 質疑応答、討論



シンポジウムの様子

(2) 安全工学会における活動

(実施場所) オンライン

(実施日時) 年数回

(参加者数) 産業防災研究会メンバー15名

(収入) 19,200円 (学会誌執筆料)

(支出) 4,965円 (安全工学会シニア会員会費)

(内容の詳細および成果)

NATECHに関わる種々の情報交換, 安全工学会誌NATECH特集への投稿

(3) ゲーム型防災ワークショップのための活動

(実施場所) 京都大学防災研究所

(実施日時) 2025年3月18日(火) 13:30~16:00

(参加者数) 3名

(収入) 0円

(支出) 2,060円 (交通費)

(内容の詳細および成果)

2023年度に京大防災研の協力で実施したゲーム型の防災ワークショップで利用したゲームの素材一式と実施方法の引き継ぎを行った。

IV 社員総会の開催状況

第1回通常総会

(日時) 2024年6月19日 18:45から19:15 (オンライン会議)

(場所) Zoomによるオンライン会議

(社員総数) 12名

(出席者数) 11名 (うち委任状提出者4名)

(内容) 審議事項

- (1) 2023年度事業報告
- (2) 2023年度収支報告
- (3) 監査報告
- (4) 定款変更
- (5) 2024年度事業計画
- (6) 2024年度収支計画

V 理事会その他の役員会の開催状況

第1回理事会

(日時) 2024年6月19日 18:15から18:45 (オンライン会議)

(場所) Zoomによるオンライン会議

(内容) 審議事項

- (1) 2023年度事業報告
- (2) 2023年度収支報告
- (3) 監査報告
- (4) 定款変更
- (5) 2024年度事業計画
- (6) 2024年度収支計画